

こすもスマイル

回覧



年頭のご挨拶
事業管理者 坪内 斉志



41号 発行/小林市立病院
地域医療連携室



新年明けましておめでとうございます。新元号「令和」初めての年始に際し、小林市立病院を代表いたしましてごあいさつ申し上げます。

昨年1月から当院での分娩対応が再開され、およそ80名の妊婦さんが無事出産されました。宮崎大学医学部産婦人科学教室、県立宮崎病院産婦人科、西諸医師会および関係諸機関の多大なご尽力により、大きなトラブルもなく、将来を担う新しい「いのち」が誕生しましたことに心より感謝申し上げます。しかし依然常勤医一人体制で、すべての妊婦さんへの対応が不可能であることは変わりありません。ハイリスク症例は高次病院へお願いし、分娩数の制限も余儀なくされており、地域の皆様のご期待に沿えず誠に申し訳ありません。産婦人科医師の不足は未だ全国的にも改善の兆しが見えませんが、これまで以上に周辺高次医療機関との綿密な連携を構築し、引き続きスタッフとともに努力して参ります。

一方、昨年4月小児科常勤医1名が着任いたしました。宮崎大学医学部小児科学教室および鹿児島大学小児科学教室には以前と同様にご支援頂いており、休日診療の充実に加えおよそ月10日の準夜帯オンコール体制を整備できました。今後も時間外診療の拡充を目標に、関係諸機関のご協力が得られるよう交渉を続けて参ります。

さて、昨年は宮崎大学医学部医学科5年生17名が地域医療研修のため当地へ訪れ、また宮崎大学をはじめ10名の初期研修医が当院で研修しました。今後も西諸医師会および関係諸機関のご協力を頂いて充実した研修提供を目指し、当地域の喫緊の課題である内科診療体制整備のため、西諸医療圏で一緒に働いてくれる医師の「獲得」へ繋がることを心より期待しています。

本年も引き続きご理解とご支援を賜ります様、宜しく願いいたします。

病院の理念

安心、安全で信頼される病院を目指します

【基本方針】

- ◎ 西諸の中核病院として、地域の医療機関と連携し高度な医療を提供します
- ◎ 職員一丸となって、迅速な対応とチーム医療で、安全な医療を提供します
- ◎ 誠実かつ真摯(しんし)な姿勢で日々研鑽(けんさん)に努め、信頼される質の高い医療を提供します
- ◎ 自治体病院として、平等で心が通い合い、安心できる快適な療養環境を提供します
- ◎ 患者様と家族の満足を追求し、プライバシーの保護をはじめ患者様の権利を尊重します



臨床栄養室

こんにちは、臨床栄養室です。

当院の臨床栄養室は管理栄養士の病棟常駐制に取り組んでおり、各病棟に1名ずつとNST専任の管理栄養士で患者さん一人ひとりに合わせた栄養管理を行っています。今回は、当院の「NST」について紹介します。

NST (Nutrition Support Team = 栄養サポートチーム) とは、患者さんに適切な栄養管理を提供するための医療チームのことです。当院のNSTはNST医師(専任)、主治医、管理栄養士(専任2名)、薬剤師(専任1名)、看護師(専任4名)、臨床検査技師、言語聴覚士、理学療法士で構成されています。NST介入患者数は毎月延べ80名で、低栄養に陥るリスクの高い患者さんや特別な栄養管理の必要性がある患者さんを対象に、適切な栄養管理が施行されているか週に1回カンファレンスと回診を行っています。回診では「口から食べる楽しみ」を忘れないように食事形態の調整を行うなど経口栄養に関する事だけでなく、経腸栄養や静脈栄養についても多職種で連携し早期栄養サポートを実践しています。NSTが介入したことにより低栄養状態の改善や、食事摂取量のアップに繋がったケースも多くあります。今後も患者さん一人ひとりに合わせた栄養管理ができるよう尽力いたします。また、臨床栄養室では医師の指示のもと食事相談や栄養指導を行っています。今年度から新たに外来化学療法中の患者さんを対象とした栄養指導に取り組んでいます。抗がん剤治療による食欲低下や低栄養を予防するために、患者さんの食生活を詳しく聞き、そのなかで改善できる点を一緒に話し合います。その他、外来での糖尿病栄養指導や透析栄養指導なども行っていますので、食事についての不安や悩みがある方はお気軽に管理栄養士までお声掛けください。今後ともよろしく願いいたします。



管理栄養士
窪谷 茉夕



3階病棟

こんにちは。3階病棟です。3階病棟は整形外科、泌尿器科、産婦人科の混合病棟です。2019年1月から出産の対応を始め、11月末までにかわいい赤ちゃんが74名誕生いたしました。若いスタッフも多くみんな笑顔で、日々仕事に邁進しています。今回は入職2年目のスタッフを紹介します。

①趣味・熱中していること ②健康管理法 ③好きな言葉 ④助産師・看護師として思う事



- ①“時短で効率的に動けるように”をモットーに整理整頓をすること。
- ②無茶はしません。早い時間に寝て体をゆっくり休めます。
- ③「ありがとう」感謝の気持ちを大事にしています。
- ④助産師として生命の誕生に立ち会えることを嬉しく思います。妊娠・出産・育児には不安や心配事がつきものです。そんな時、私は姉や母のような気持ちで寄り添い、物事が少しずつでも解決できるような存在でありたいと思いながら仕事をさせてもらっています。



助産師 角井 久美子



- ①温泉 毎日温泉に行っています。幸せです。
- ②温泉の歩行浴で歩く
- ③「一生懸命だと知恵が出る、中途半端だと愚痴が出る、いい加減だと言いつけが出る」
- ④自分が妊娠・出産を経験し、助産師の仕事がより好きになりました。今まで仕事を続けてこられたことに感謝し、支えてくれる人たちに感謝です。1つ1つのお産を丁寧に関わっていきたくです。



助産師 黒木 洋子



- ①子どもと遊ぶこと
- ②十分な睡眠。よく笑い感動するTV・DVD・本を読む
- ③誠実
- ④たくさんの出会いを通して、一緒に感動していけたらいいと思います。また、お母さんと子どもの笑顔をたくさん見たいです。



助産師 中田 百枝



- ①物が沢山ある我が家を断捨離してスッキリさせようと計画中
- ②生活のリズムをできるだけ壊さないことです。
- ③『笑顔』です。いつでも笑顔を忘れない人でありたいと思っています。
- ④看護の現場は幅広く、私が勤務する病棟では「生命の誕生」と「命の終わり」のどちらも経験する。まさに、“命の現場”です。看護師は入院というその人の一大イベントに一番近くで接する存在です。その一人一人に対して家族のように看護できるよう、看護のプロとして日々研鑽していこうと思っています。



看護師 後藤 香織



- ①海外や国内旅行に行くことやliveに行くことです。
- ②睡眠をしっかりとり、ストレス発散をしています。
- ③感謝
- ④幼い頃から夢であった看護師として地元の病院で働けることをとてもありがたく思います。日々経験し、新しい知識や専門性のある学習を行い、患者さんに、頼りになる看護師になっていきたいです。3階スタッフと一緒に患者さんと家族のためにどうすべきか考え、よりよい医療につながる看護を実践したいです。



看護師 松永 真佳

これからも多職種と連携しながら、患者さんや家族が安心・安全に入院生活が送れるように看護していきます。

主任看護師 佐土瀬 さつき

多数傷病者受入訓練



昨年11月9日（土）から10日（日）にかけて高原町総合運動公園をメイン会場に令和元年度九州・沖縄ブロックDMAT実動訓練が実施されました。当院ではこの実動訓練に併せて10日に多数傷病者受入訓練を実施しました。休日にも関わらず、小林准看護学校の生徒さんに傷病者役として参加いただき、充実した訓練となりました。



災害発生場所によっては、西諸圏域はもとより鹿児島県域や熊本県域など県外からの傷病者受入も想定されるため、限られた人的資源や物的資源を最大限有効に活用出来るよう、日頃の訓練から意識していくことが大事であると感じました。いつ発生するか分からない災害から身を守るため、自宅や職場から近い指定避難場所や非常時の持ち出し品の確認など、今一度“防災”について考えてみてはいかがでしょうか。

事務部 経営企画係長 勝吉 優

小児科診療体制について（お知らせ）

昨年4月から常勤医着任に伴い平日診療（月曜～木曜）を以下のとおり再開しています。限られたスタッフで診療に当たっています。可能な限り住民の皆さんのご期待に添えるよう体制充実に努めてまいりますので、ご理解とご協力をお願いいたします。

○受付時間 月曜日・水曜日 : 午前8時00分～午前11時30分
火曜日・木曜日 : 午前9時30分～午前11時30分
金曜日 : 午前9時30分～午前11時30分
: 午後1時00分～午後3時30分

○診療体制 月曜日～木曜日 : 午前中は一般外来、午後は健診・予防接種・帝王切開手術
金曜日 : 午前・午後 専門外来（宮崎大学小児科学教室）

※救急の場合を除き診療は予約制となっています。

※診療に関する詳細は、当院ホームページでご確認、又は電話でお問い合わせください。

ホームページ <https://kobayashi-city-hp.jp>

電話 0984-23-8225



今回のお花

小林華道連盟より
毎週すばらしいお花をいただいております。

